

NJ 素流協 News

平成26年10月10日 第117号

平成26年10月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

主要木材の需給見通し
(平成26年第4四半期
及び27年第1四半期)

林野庁は、9月19日に平成26年度第2回木材需給会議を開催し、

「主要木材の需給見通し(平成26年第4四半期及び平成27年第1四半期)」を策定した。なお第4四半期は10月から12月、第1四半期は1月から3月を示す。

1 経済情勢等

平成25年度の実質GDP成長率は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要発生等により、公共投資や個人消費、住宅投資等で2・3%(実績)と比較的高い成長となった。平成26年度は駆け込み需要の反動による個人消費等の冷え込みが影響するものの、マイナス成長にはならず、0・2%の成長が見込まれる。

平成26年度の新設住宅着工戸数(見通し)は、対前年比90・3%の89万1千戸と想定される。平成26年1月から7月までの累

計木材輸出額は、98億3千万円(対前年同期比149%)となっており、高い伸びを持続している。

2 主要木材需給動向

(1) 丸太・製材品

国産材製材用丸太の工場入荷量は、平成26年第4四半期は、消費税率引き上げの反動があるものの、国産材回帰の流れを受けて、堅調に推移する見通し。27年第1四半期も前期に引き続き堅調に推移する見通し(図)。

国産材合板用丸太についても、平成26年第4四半期、27年第1四半期とも、構造用合板の厚手化、型枠合板等新規用途への使用や、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響も想定されることにより、前年同期比で増加する見通し。

米材丸太の需要については、平成26年第4四半期は前年同期比で減少する見込み。27年第1四半期は消費税の動向によっては、駆け

込み需要を見越した動きも一部見られる可能性もあるが、前回の駆け込み需要ほどの動きは無いと想定されるため、前年同期比で減少する見通し。

米材製材品の需要については、平成26年第4四半期は、住宅需要減が引き続き見込まれるため、前年同期比で減少する見込み。27年第1四半期も、前期の流れを受けて低水準の需要が見込まれるが、前年同期比では増加する見込み。

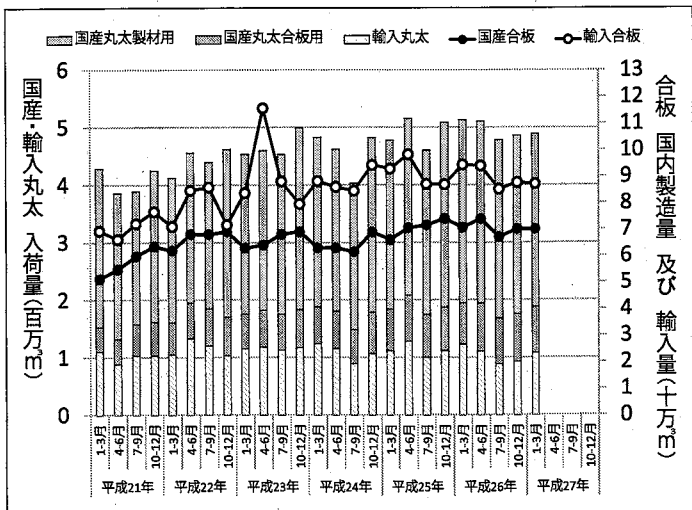


図 丸太入荷量等の推移(平成26年7月以降は見込み)

欧州材（製材品）の需要については、平成26年第4四半期は国内需要動向に加え、産地が減産した影響もあり、前年同期比で減少する見込み。27年第1四半期も低水準の入荷と見込まれる。

針葉樹合板へのシフトなどが進み、平成26年第4四半期以降、合板用、製材用とも減少傾向であり、前年同期に比べかなり減少する見通し。製材品の需要についても、前年同期比で減少する見通し。

北洋材丸太の需要については、平成26年第4四半期以降も堅調に推移すると見込まれる。製材品の需要については、国内在庫状況等を踏まえて、前年同期比で減少する見通し。

ニュージールランド・チリ材丸太の需要については、国内大手製材工場停止の影響により、平成26年第4四半期以降も前年同期と比べ大幅に減少する見通し。製材品の需要については、製材品輸入へのシフト等により、平成26年第4四

半期以降、堅調に推移する見通し。
(2)合板・構造用集成材

国内製造合板の需要については、平成26年第4四半期は例年同様の秋需が見込まれるが、昨年と比べ低い水準で推移すると想定されるため、前年同期比で減少する。27

年第1四半期も前年に比べ低い水準で推移すると見込まれる。

輸入合板の需要については、平成26年第4四半期は建材、住宅機器用の需要が堅調に推移すると見込まれるため、昨年とほぼ同等レベルと想定される。27年第1四半期も堅調に推移すると見込まれるが、高水準であった前年同期に比べ減少する見通し。

国内製造構造用集成材については、平成26年第4四半期以降は、駆け込み需要の反動を受け、前年同期比で減少する見通し。

輸入構造用集成材については、平成26年第4四半期以降は、産地大型工場の稼働を受け旺盛な供給意欲を反映して、前年同期比で増加する見通し。

トピックス

東北・北海道ブロック 林業グループコンク ール開催される

9月3、4日の両日、盛岡市繋の愛真館及び雫石町の小岩井農場において平成26年度東北・北海道ブロック林業グループコンクール（主催：岩手県、全国林業研究グループ連絡協議会、岩手県林業研究グループ連絡協議会）が開催され、約100名が参加した。

各道県代表の林業グループが活動内容について発表し、審査の結果、宮城県登米市の津山町林業研究会の取り組み「次の世代へ繋ぐ森林文化」が最優秀賞を受賞した。

コンクール終了後、NJ素流協の高橋常務理事が「北日本における最近の木材需給動向について」NJ素流協の取り組み」と題し講演を行い、A材からD材まで、木材のマテリアル利用とバイオマス利用をバランスよく進めること

の重要性を訴えた。

東北森林管理局国有林 材供給調整検討委員会 に出席

9月4日、秋田市の東北森林管理局において、今年度の第2回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会が開催され、NJ素流協から高橋常務理事が委員として出席した。

委員による検討の結果、「現時点では国有林材の供給調整は必要ない。ただし、地域によって住宅新設着工数の動向が異なっていることや、大型木材加工施設等の新設に伴う集荷が盛んになることが想定されることから、東北森林管理局には、情報の収集、特に需給の動向を注視してもらいたい」との見解が示された。

委員からは、「岩手県では製紙用広葉樹チップは供給不足。発電用チップは順調に出荷されている」「合板工場が減産しているため、B材の受入れ制限が長引き、素材生産、特にA材への影響が懸念される」等の意見が出された。

表 国有林山元委託販売(第3回) 入札結果

市日:平成26年 9月 19日
市場:岩手南部森林管理署 葛丸川・大官森 山元土場

売払 番号	樹種	長級 (m)	径級 (cm)	等級	本数	材積 (m ³)	応札 枚数
301	スギ	2.0	14-38	込	443	35.580	1
302	スギ	4.0	16-36	中玉・ 中A・中B	118	27.064	3
303	スギNA	2.0	-	低質	層積	5.733	2
304	アカマツNA	2.0	-	低質	層積	3.062	2
305	LA	2.2	-	低質	層積	62.320	4
306	LA	2.2	-	低質	層積	21.085	4
307	スギ	2.0	14-36	込	225	20.539	1
308	スギ	2.0	16-30	込	345	27.695	1
309	スギ	2.0	14-28	込	218	16.531	1
310	スギ	2.0	14-30	込	341	27.923	1
311	スギ	4.0	8-16	込・中玉	832	51.186	1
312	スギ	4.0	8-16	込・中玉	193	12.132	1
313	スギ	4.0	16-30	込	236	34.724	1
314	スギ	4.0	14-32	中玉・中A	358	47.326	2
315	スギNA	2.0	-	低質	層積	37.346	3
316	スギNA	2.0	-	低質	層積	30.467	3
合計					3,309	460.713	

合法木材供給事業者 認定団体研修に出席

9月9日、東京都江東区の東京木材会館において、平成26年度合法木材供給事業者認定団体研修(主催・一般社団法人全国木材組合連合会)が開催され、全国から約160名が出席した。N J素流協から事務局職員が出席し、我が国の違法伐採対策等についての講義を受講した。

岩手南部森林管理署管内 国有林素材山元委託販売 第3回 入札

9月19日、奥州市水沢区の岩手南部森林管理署会議室において、N J素流協による国有林素材山元委託販売の3回目の入札が行われた。入札結果は表のとおり。
次回入札は10月23日を予定していますので、奮ってご参加下さい。

木質バイオマス研究会 に出席

9月26日、東京都渋谷区の地球環境パートナーシッププラザ(国連大学1階)において、NPO法人バイオマス産業社会ネットワークの第139回研究会「日本における持続可能な森林経営と木質バイオマス利用」が開催され、N J素流協から役員3名が出席した。研究会では、持続可能な森林経営とバイオマスエネルギーの両立について、三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員の相川高信氏による講演が行われた。

一戸木質バイオマス発 電所燃料用原木納材に 係る説明会を開催

9月30日、一戸町コミュニティセンター会議室において、㈱一戸フォレストパワー木質バイオマス発電所への燃料用原木の納材に係る説明会を開催し、組合員及び県・町職員等50名が参加した。
同発電所の発電規模は6250kW/

N J素流協創立10周年 記念式典のご案内

時、燃料消費量は年間約9万トン(含水率50%換算)で、平成28年4月に営業が開始される予定であり、本年10月からN J素流協による原木の納材を開始することとなった。
説明会では、納入する材の樹種や規格、トラックスケールの使用方法等を説明した。

N J素流協創立10周年記念式典を左記のとおり開催します。皆様のご臨席をお願い申し上げます。

【日時】平成26年11月25日(火)

【場所】ホテルメトロポリタン盛岡
ニューウイング

【内容】

記念式典 午後3時〜

記念講演会 午後4時〜

記念祝賀会 午後5時15分〜

*記念講演会

【講師】前林野庁長官 沼田 正俊氏

【演題】「激動する我が国森林・林業の将来」(仮題)

森林内放射性物質 拡散防止技術(その1)

農林水産省は、平成23年度から福島県
広野町の町有林に、平成24年度からは川
内村の福島県林業研究センター試験林、
飯館村の国有林に試験地を設定し、これ
ら試験地を主なフィールドとして、落葉
等の除去や伐採等の森林施業による放射
性物質の影響低減、森林土木の手法によ
る放射性物質の拡散防止等について技術
の検証・開発を実施しており、調査結果
について8月22日に公表したので、その
概要を紹介する。

1 落葉等除去や伐採等に伴う空間線量率の推移及び放射性物質の移動状況

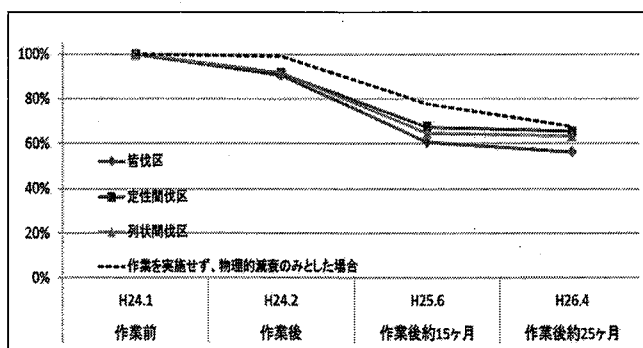
広野町、川内村、飯館村の各試験地に
おいて、落葉等除去や皆伐、間伐等によ
る空間線量率の低減効果を調査した。落
葉等除去や伐採等の作業は平成23年度及
び24年度に実施し、平成25年度は作業後
の推移を調査した。

作業後の推移を見ると、おおむね物理
的減衰(放射性物質の崩壊等による減衰)
に応じて低減しており、安定的に推移し
ている。しかし、一部間伐箇所では物理

的減衰ほど低減していない箇所も存在す
る。その原因としては、放射性物質を含
む葉等が新たに林床に落ちてきた可能性
が考えられる(図)。

また広野試験地においては、作業実施
後の土砂等及び放射性セシウムの移動状
況について調査した。落葉等を除去した
箇所では、施工後1年目は移動量が多かつ
たが、2年目は対照区と同程度の移動量
となった。間伐箇所及び皆伐箇所は、お
おむね対照区と同程度だった。土砂等移
動量と放射性セシウム移動量はほぼ同様
の傾向を示し、土砂等に付着した放射性

図 広野試験地における空間線量率の推移



※縦軸は作業前の空間線量率に対する割合。

※スギ50年生の林内で定性間伐、列状間伐を、アカマツ・広葉樹混交林(47-64年生)内で皆伐を実施。

表 川内試験地における林床被覆施工前後の空間線量率(地上1m、単位: $\mu\text{Sv/h}$)

工種	植生マット工		植生基材吹付工		木材チップ散布工		
	1枚	2枚	5cm	10cm	5cm	10cm	
落葉等除去あり	施工前(a)	2.84	3.12	3.27	3.39	5.43	5.03
	落葉等除去後(b)	2.85	2.79	3.15	3.29	4.97	4.72
	施工直後(c1)	2.76	2.68	2.78	2.48	5.02	4.55
	施工後3ヶ月(c2)	2.76	2.57	2.62	2.54	4.80	4.31
	低減率(a→c1)	3%	14%	15%	27%	8%	10%
	低減率(a→c2)	3%	18%	20%	25%	12%	14%
落葉等除去なし	施工前(a')	3.03	3.30	3.47	4.04	4.92	4.45
	施工直後(c1')	2.86	3.09	3.06	3.15	4.88	4.27
	施工後3ヶ月(c2')	2.83	3.09	3.09	3.15	4.72	3.89
	低減率(a'→c1')	6%	6%	12%	22%	1%	4%
	低減率(a'→c2')	7%	6%	11%	22%	4%	13%

※空間線量率は各試験地7測定点のうち両端を除く5測定点の平均値。

※測定時の対照区平均空間線量率をもとにして各箇所の数値を補正。

セシウムが移動していると推察される。
2 林床の被覆による放射線の遮蔽効果
川内試験地及び飯館試験地において、
森林土木技術を活用し林床を被覆するこ
とによる放射線の遮蔽効果を空間線量率
の測定により検証した。

この結果、植生基材(バーク堆肥、種
子等の混合物)の吹付により10~30%程
度、木材チップの散布や植生マット(ヤ
シ・ジュート製の敷設により数%~20%
程度空間線量率が低減した。落葉等除去
を実施しない場合でも林床の被覆により
20%程度の線量低減効果が得られたもの
もあったことから(表)、林床の被覆は
除去物を発生させない放射性物質対策の
一つとなり得るものと思われる。

今月の名木・巨木

23

(岩手県奥州市水沢区)

奥州市指定天然記念物

羽田八雲神社のイロハモミジ

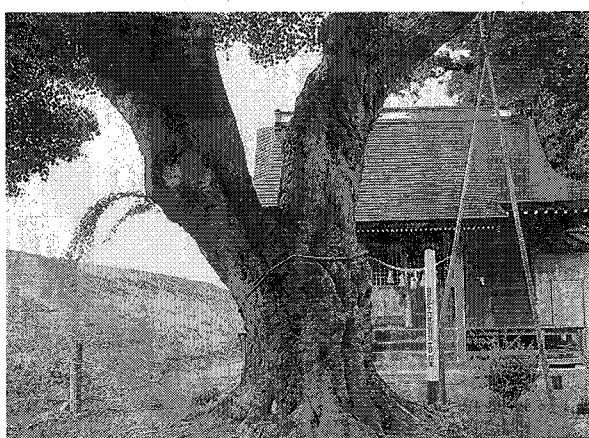
指定…1981年3月30日

所在…奥州市水沢区羽田町粟ノ瀬

奥州市水沢区の羽田町は、奥州市中央部を南北に流れる北上川の東側に位置し、鑄物の町として知られている。

国道397号線を市中心部から東に進み北上川に架かる小谷木橋を渡り左折すると、堤防沿いに広がる穏やかな田園風景の中に、八雲神社とイロハモミジの姿を見つけることができる。

樹高約13メートル、幹周り3.64メートル、推定樹齢300年(奥州市ホームページ・現地案内板より)とされ、一見樹勢が衰えてきているように見えるが、その根元に立つと印象は一転し、隆々とした幹の形状に、力強い生命力が感じられる。



イロハモミジはカエデ科カエデ属の落葉高木で、福島県以西の太平洋側に分布し、八雲神社の古木は植樹されたものである。イロハモミジに類似する種として、オオモミジ、ヤマモミジがあり、オオモミジは福島県以北の太平洋側、ヤマモミジは日本海側に分布する、とする報告がある。またイロハモミジ、ヤマモミジの葉は重鋸歯(葉の縁のギザギザの中に更にギザギザがある)、オオモミジは単鋸歯(ギ

ザギザは重ならない)であること、イロハモミジの葉は比較的小さいこと等の特徴があるが、葉の形には変異が多くはつきりとした識別は難しい。

八雲神社は、美濃国(岐阜県)から移り住んだ小林家により江戸

初期に造営されたと伝えられる。

羽田地区は昭和22年9月のカスリン台風、翌23年9月のアイオン台風等により、度重なる大洪水の被害に見舞われてきたが、この古木は生き残り地域を見守ってきた。まもなく紅葉の季節を迎える。

冗談欄 「一番多い苗字」

新聞で「苗字調べがなされた」との記事があったので、インターネットを開いてみた。

全国に30万件弱あると言われる苗字を電話帳をもとに調べたもので、日本の人口の98%強を網羅していると自慢している。

それによると、多い順に佐藤(205万人)、鈴木(179万人)、高橋(149万人)、田中(137万人)、伊藤(113万人)となり、20位まで記されている。これらの苗字には同姓の総理大臣が居るので、成程と納得する。

国民全員が苗字を名乗るようになったのは、明治時代に法律によって義務付けられたためといわれる。

苗字を名乗るのに困ったためか、山とか川などの地名によったものが多い。大きな地域の地名にすると同じ苗字が多くなることから、小さな地域名になったようである。大川、中川、下川、川中、田中、上田、下田、北田等である。

樹木についてみると、「樹」は苗字には少なく、名前に多く、反対に「木」は苗字に多く、名前には少ない。

樹木名で最も多いのが「木」で約250、次いで「藤、松、森、杉、梅、栗、桑」などが続いている。2樹種組み合わせた「松柳」とか「桐藤」などもある。更に3樹種組み合わせたものとして「榎藤松」という苗字もあるらしい。

現実には存在していない芸名や相撲力士名などを幽霊苗字というらしいが、特異なものも2、3上げてみる。「一」にのまえ「二」の前、「十二月一日(しむすだ)師走だ」、「十二月三十一日(ひずめ)日詰め」、「十八女(さかり)盛り」、「春夏秋冬(ひととせ)一年」。

話をもとに戻そう。

「佐藤さん」が一番多いと言われるが、私は「大井さん」が一番だと思っている。先日、駅前で「オーイ」と叫んだら、全員が振り向いたから。

平成26年9月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	6,573	126.0	96.9	3,776	88.1	171.5	10,349	108.9	115.2
カラマツ	3,973	106.4	67.7	2,489	112.7	876.6	6,462	108.7	105.0
アカマツ	2,569	363.3	85.1	0	*	0.0	2,569	363.3	78.6
その他針葉樹	60	112.3	*	52	62.9	251.0	111	82.3	540.0
広葉樹	0	*	*	344	166.2	789.7	344	166.2	789.7
合計	13,175	135.7	84.1	6,660	98.2	237.6	19,835	120.2	107.4

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	2,353	193.6	258.7
カラマツ	777	82.4	98.4
アカマツ	534	278.6	2,915.2
合計	3,665	155.9	213.4

樹種	今年度累計			
	合板用 (m³)	その他 製材用等 (m³)	計 (m³)	バイオマス (t)
スギ	41,674	23,592	65,266	7,128
カラマツ	18,204	16,412	34,616	4,440
アカマツ	15,953	642	16,595	1,338
その他針葉樹	323	1,103	1,426	0
広葉樹	0	1,754	1,754	0
合計	76,154	43,502	119,657	12,906
目標達成率(%)	43.3	55.8	47.1	35.8
計 画 量	176,000	78,000	254,000	36,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成26年9月の需要動向】

- スギは9月度も合板工場の減産は継続されているため納入に制限あり。10月度も続く。
- カラマツも同じく減産されているが、元々原木不足の状況の為制限なしの状況。
- アカマツは9月度も納入制限あり、今後は伐採最盛期に入るため今後の動向に注目。

落穂拾い

今回、「都会人の想う森林、地方(田舎)人の住む森林」について述べてみたい。落穂拾い子は地方人で、かつ森林と深い関わりをもつ林業に携わっているが、もちろん、山奥深い森の中に住んでいるわけではない。冒頭に挙げた「地方人の住む森林」という表現は少し誇張した言い回しで、地方に住む人々がすべて、森の中に住んでいるわけではないが、森林を身近に感じ、森林や林業に関わる人が多いのは確かである。

さて、近年、世人の森林・林業に対する関心が多様化してきており、ある意味では、その関心の持ち方が偏頗(へんぱ)しているように感じることもあるが、関心の度合いが深まっていることも事実である。そのような中で、森林についての考え方・関心において、都会人と地方人の間の認識の乖離が大きくなっているという指摘がある。

筑波大学の増田美砂氏が「環境と林業」と題して『林業技術』617号(1999年)に述べているのだが「都市住民にとつての森林はエッセンスではなくオプシオンに過ぎない。にもかかわらず、都市生活に浸りながらそれを否定し、森林に象徴される自然を体験しなければという一種の強迫観念にとらわれているのではないだろうか」と考察している。これを砕いて言えば、都市住民にとつての森林への意識は、必ずしも森林が絶対的に必要なものではなく、その時々に興味や関心によって想うものに過ぎない。そう

であるのに、都市住民は自分たちが常時住み、生活のほとんどを都会という場所に依拠しながら、都会の生活を否定して森林など自然への憧憬を隠すことなく、いな、森に入り込み自然に接しなければ人間じゃないという考え方に固執しがちなのではないか、ということであろうか。

だいぶ以前の調査であるが、信州大学教授・菅原聡氏が「森林環境に対する住民意識調査」を行なっているが、その分析結果として「森林についての考え方は住む場所によって異なる」と指摘している。具体的には、都市に住む人にとつては、森林は「見る場」、「遊ぶ場」、「思索の場」である。そして直接に森林と関わり合うことなく、森林からの恵みを受身的に享受しようとしている。それに対して、山村に住む人にとつては、森林は「生産の場」、「生活の場」である。そして、森林と直接的に関わりをもつて、森林の恵みを得ようとしている。そのようなことから、山村には「具体的な森林意識」をもっている人が多いのに対し、都市には「観念的な森林意識」をもっている人が多い、と言っている。

ここで誤解してもらっては困るのだが、落穂拾い子が言いたいことは、森林に関して「都会人の論理」とか「地方人の論理」によってそれぞれが一方的に主張するのではなく、すなわち両者の間の認識・考え方に乖離がないことを求めているのである。大切なことは、森林の多様な価値や効用を認め合い、森林のもつ豊かな可能性を都会人も地方人も共通の財産として未来に向けて生かすことである。